

東京都立八王子桑志高等学校 令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	国語	科目：	論理国語	単位数：	3	指導学年：	2
担当教諭：	青田京子 清水瞳						
使用教科書	精選論理国語（東京書籍）		副教材	常用漢字フォルダ（浜島書店）/文学国語セレクション（東京書籍）			
				三訂版 よむナビ現代文2,5 修練編（いいずな書店）			

年間指導目標：
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	配当 時数
1 学 期	中 間 考 査	単元名【発見への誘い】 読む『いつもそばには本があった』 読書の意義について筆者の主張を読み取り、自分に引き寄せて考える	(知)	言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。 文や文章の効果的な組み方や接続の仕方を理解している。	○	○	○	○		23
		読む『ミロのヴィーナス』 描かれている内容を理解し、論理的に考えることの意義を知る	(思)	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。	○	○		○		
			(態)	粘り強く哲学的視点に立った語句の意味や筆者の思考の道筋をつかみ、今までの学習を生かして自己の知識と関連付けて自分の意見をまとめ、発表しようとしている。		○	○	○	○	

1 学期	期 末 考 査	単元名【言語と認識】 読む『相手依存の自己規定』 具体的な事例と筆者の意見の関係に注意して読み、言語と自我の構造について考える。 探求『資料を整理し、テーマを吟味する。』 資料を集めて様々な観点から整理しテーマを吟味する。	(知)	文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。	○	○	○	○		24
			(思)	読むことにおいて、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。	○	○		○		
			(態)	積極的に筆者の意見と具体例の関連性を理解し、学習の見通しをもって調べた身近な例を整理分析して自己把握についての考えをまとめ他者に伝えようとしている。		○	○	○	○	
2 学期	中 間 考 査	単元名【人間を見つめる】 読む『分人とは何か』 提示された問に注意して筆者の主張を理解し、自分に引き寄せて考える。 読む『メディアの変容』 挙げられている事例と筆者の分析の関係に注意して読み、人間関係の在り方について考えを深める。	(知)	論証したり、学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	○	○	○	○		23
			(思)	「読むこと」において、関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めている。	○	○		○		
			(態)	進んで本文中の複数の問いと具体例の配置に着目しながら、筆者独自の造語に基づく主張を読み取り、今までの学習を生かして自分とその人間関係について考えを深めようとしている。		○	○	○		
2 学期	期 末 考 査	単元名【学問のまなざし】 読む『「リスク」と「リスク社会」』 対比に注意して論の展開をつかみ、「リスク」という概念について理解を深める。 探求『仮説を立てて検証する』 仮説を立てて検証し、検証課程を文章にまとめる。	(知)	文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について、理解を深めている。	○	○	○	○		24
			(思)	読むことにおいて、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。 書くことにおいて多面的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にしている。	○	○		○		
			(態)	積極的に記述から中心主張を捉えて要約し、学習課題に沿って現代における課題を具体的に考え話し合おうとしている。		○	○	○	○	
3 学期	学 年 末 考 査	単元名【社会を捉えなおす】 読む『「である」ことと「する」こと』 例示と意見の関係を整理して主張をとらえ変化する社会における人間の在り方について考える。 読む『消費されるスポーツ』 筆者の提示す津問題を読み取ってメディアとスポーツの関係について理解を深める。	(知)	言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。 文や文章の効果的な組み方や接続の仕方を理解し	○	○	○	○		23
			(思)	読むことにおいて、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。	○	○		○		
			(態)	積極的に社会事象の分析を通した筆者の主張を読み取り、学習課題に沿って自分の考えをまとめようとしている。		○	○	○	○	
合計										117

教科・分野：	公民	科目：	公共	単位数：	2	指導学年：	2
担当教諭：	伊部 史典						
使用教科書	新版 公共（数研出版）		副教材	フォーラム 公共（とうほう）			

現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。	国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

評価方法							配当 時数			
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度						
観点	評価規準				a	b	c	d	e	
(知)	・地球環境問題、資源・エネルギー問題、生命科学や情報技術の進展などの事象について理解できている。				○	○	○	○		12
(思)	・公共的な空間における人間としての在り方生き方を考察するための選択・判断の手掛かりが考察できている。				○	○	○		○	
(態)	・選択・判断の手掛かりとなる考え方を使って、現代の諸課題を主体的に追究できている。					○		○	○	
(知)	・青年期は自立や自律をはかる重要な時期であることを理解できている。 ・古代・中世・近世・近代の思想家の思想内容や三大宗教の内容が理解できている。				○	○	○	○		12
(思)	・自己形成の課題について考察できている。 ・先哲の思想や宗教が自分自身の生き方に与えている影響に気付くことができている。				○	○	○		○	
(態)	・よりよく生きることについての自覚を深められている。 ・社会の一員としての自覚を深め、自分の生き方を選択し、自己実現が目指せている。					○		○	○	

東京都立八王子桑志高等学校 令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	数学	科目：	数学Ⅱ	単位数：	3	指導学年：	2
担当教諭：	今村裕久 小澤正和 今野友智 牧戸一益						
使用教科書	新編数学Ⅱ（数研出版）		副教材	3TRIAL数学Ⅱ（数研出版）			

年間指導目標：

数学における概念や原理・原則を体系的に理解するとともに、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。

事象を数学的に考察したり表現する能力を培い、数学のよさを認識できるようにし、それらを活用する態度を育てる。

数学を用いた問題解決の過程を振り返って考察し、自己評価の基に改善しようとする態度を養う。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	・基本的な概念や原理・原則を体系的に理解する。 ・日常の諸問題を数学的な表現を用いて考察したり、数学的に解釈したりする力を身に着ける。 ・数学的な問題を的確に処理し、解決する。	・数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し、統合的・発展的に考察する力を養う。 ・数学的な表現を用いて社会における量や事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	・数学の良さを認識し積極的に活用しようとする態度、困難な問題にあっても粘り強く解決しようとする態度を養う。 ・問題解決の過程や自己の学習過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	配当 時数
1 学期	中間 考査	第1章 式と証明 第1節 式と計算	(知)	パスカルの三角形や二項定理の性質を利用して、展開式や項の係数を求めることができる。多項式の除算、分数式の四則演算、恒等式の係数決定ができる。	○	○				20
			(思)	パスカルの三角形や二項定理の性質を理解し、展開式などに活用することができる。多項式の除算の結果を等式で表して考えることができる。分数式を分数と同じように扱うことができる。	○	○		○		
			(態)	式の展開や多項式の除算、分数式の計算に興味・関心をもち、具体的な問題に取り組もうとする。		○		○	○	
1 学期	期末 考査	第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解 第2節 高次方程式 【夏期補講】 第4章 三角関数 第1節 三角関数 第2節 加法定理	(知)	複素数を理解し、虚数単位iを含む計算を処理することができる。解の公式や判別式、解と係数の関係から2次方程式を取り扱うことができる。因数定理を利用して、因数分解できる。	○	○				22
			(思)	複素数の表記を理解している。解の公式や判別式、解と係数の関係を利用して、問題を解くことができる。高次方程式を1次方程式や2次方程式に帰着させることができる。	○	○		○		
			(態)	複素数の計算や2次方程式の性質、高次方程式に興味・関心をもち、具体的な問題に取り組もうとする。		○		○	○	

2 学 期	中 間 考 査	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 第2節 円	(知)	2点間の距離、内分点外分点の座標を求めることができる。与えられた条件から、直線の方程式を求めることができる。与えられた条件から、円の方程式を求めることができる。	○	○				25
			(思)	図形的な条件を式で表現することができる。直線が x 、 y の1次方程式で表されることを理解している。円が x 、 y の2次方程式で表されることを理解している。	○	○		○		
			(態)	点の座標や直線の方程式、円の方程式の性質に興味・関心をもち、具体的な問題に取り組もうとする。		○		○	○	
2 学 期	期 末 考 査	第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数 第2節 対数関数	(知)	累乗根の定義を理解し、累乗根の計算ができる。有理数の指数の定義を理解し、指数法則を用いた計算ができる。対数の定義を理解し、対数の値を求めることができる。	○	○				23
			(思)	指数関数や対数関数の増減によって、大小関係や方程式・不等式を考察することができる。常用対数の値から、指数を用いて表された数の桁数を、不等式で表現することができる。	○	○		○		
			(態)	指数関数・対数関数に興味・関心をもち、具体的な問題に取り組もうとする。		○		○	○	
3 学 期	学 年 末 考 査	第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 第2節 関数の値の変化 第3節 積分法	(知)	導関数を求めることができる。導関数を利用して、接線の方程式や関数の増減を求めることができる。不定積分や定積分の計算ができ、直線や曲線で囲まれた部分の面積を求めることができる。	○	○				27
			(思)	関数の最大値・最小値と極大値・極小値を、増減表を用いて考察することができる。面積を求める際に、グラフをかくことで位置関係や積分範囲を考察できる。	○	○				
			(態)	微分法・積分法に興味・関心をもち、具体的な問題に取り組もうとする。		○		○	○	
合計										117

教科・分野：	理科	科目：	物理基礎	単位数：	2	指導学年：	2
担当教諭：	村野 浩之						
使用教科書	物理基礎（数研出版）	副教材	無し				

中学校で習った定性的な内容に高校では数量的な内容を加えて今まで感覚でしかとらえなかった自然現象を計算によって数量的にとらえられるようにするとともに、加速度やエネルギーなどの新しい概念を獲得させることによって新たなものの見方考え方を身に付けさせる。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	基本的な原理や法則について、その成り立ちから、公式を理解しているか。 必要に応じて公式を利用して、問題を解くことができるか。	科学的なものの見方・考え方ができるか。 公式の導出過程が理解できるか。 公式を用いて計算ができるか。 初見の問題でも適切に考え、解答にたどり着けるか。	授業中に板書事項をノートに写しているか。ノートをとらない場合は減点

評価方法							配当 時数
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度			
観点	評価規準	a	b	c	d	e	
(知)	計算を間違いなくできるか。	○	○				12
(思)	学習した内容を理解できたか。 公式を問題に応用できるか。	○	○				
(態)	板書事項をノートにきちんと写しているか。 問題演習プリントにまじめに取り組んでいるか。					○	
(知)	計算を間違いなくできるか。	○	○				12
(思)	その時間に学習した内容を理解しているか。 公式を問題に応用できるか。	○	○				
(態)	板書事項をノートにきちんと写しているか。 問題演習プリントにまじめに取り組んでいるか。					○	

2 学 期	中 間 考 査	摩擦力 弾性力 慣性の法則 運動方程式	(知)	計算を間違いなくできるか。	○	○				16
		仕事・仕事率 運動エネルギー 重力による位置エネルギー 弾性力による位置エネルギー	(思)	その時間に学習した内容を理解しているか。 公式を問題に応用できるか。	○	○				
			(態)	板書事項をノートにきちんと写しているか。 問題演習プリントにまじめに取り組んでいるか。					○	
2 学 期	期 末 考 査	慣性の法則 運動方程式 仕事・仕事率 運動エネルギー 重力による位置エネルギー 弾性力による位置エネルギー	(知)	計算を間違いなくできるか。	○	○				16
			(思)	その時間に学習した内容を理解しているか。 公式を問題に応用できるか。	○	○				
			(態)	板書事項をノートにきちんと写しているか。 問題演習プリントにまじめに取り組んでいるか。					○	
3 学 期	学 年 末 考 査	波の要素 波の式 波の重ね合わせの原理 波の反射 波の屈折 水面上の波の干渉 定常波 ホイヘンスの原理	(知)	計算を間違いなくできるか。	○	○				22
			(思)	その時間に学習した内容を理解しているか。 公式を問題に応用できるか。	○	○				
			(態)	板書事項をノートにきちんと写しているか。 問題演習プリントにまじめに取り組んでいるか。					○	
合計										78

東京都立八王子桑志高等学校 令和7年度 年間指導計画(シラバス)

教科・分野：	保健体育	科目：	体育	単位数：	2	指導学年：	2
担当教諭：	石井 琢磨 宇田川 奈津子 黒田 岳 高間 一誠 佐藤 賢司						
使用教科書	現代高等保健体育(大修館書店)		副教材				

年間指導目標：

運動能力と体力を高め、積極的に運動できるようにする。自分の能力・適正に応じて運動を合理的に実践し、生涯にわたって活用する運動の技術を身につけるとともに、自主的、かつ計画的に運動する基礎をつくる。スポーツを通じ、競技の意義を正しく理解し、公正な態度と協力しあう意識を養い、個人集団を問わず「最大限の努力と協力」をする習慣を身につける。

評価規準	知識・技能(知)	思考力・判断力・表現力(思)	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力(態)
	運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に自主的に取り組もうとしている。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	配 当 時 数
1 学 期	中 間 考 査	オリエンテーション 体づくり運動 スポーツテスト	(知)	【種目全般】技の名称や行い方、運動観察の方法、体力の高め方などについて理解している。 【体育理論】運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解している。		○				12
		体育理論	(思)	生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。			○	○		
			(態)	運動に主体的に取り組むとともに、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする こと、合意形成に貢献しようとするなどをして たり、健康・安全を確保したりしている。					○	
1 学 期	期 末 考 査	3 種目 3 展開 ①球技(ソフトボール) ②球技(バドミントン) ③球技(テニス) [上記のうち1 種目実施]	(知)	【3 種目 3 展開：球技(ソフトボール)】安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防をすることができる。		○				12
		水泳	(思)	生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。			○	○		
			(態)	運動に主体的に取り組むとともに、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする こと、合意形成に貢献しようとするなどをして たり、健康・安全を確保したりしている。					○	

2 学 期	中 間 考 査	水泳	(知)	【水泳】複数の泳法で継続して泳ぐことができる。 【3種目3展開：球技(バドミントン)】状況に応じたシャトル操作や安定したラケットの操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻		○				16
		3種目3展開 ①球技(バドミントン) ②球技(テニス) ③球技(ソフトボール) [上記のうち1種目実施]	(思)	生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。			○	○		
		(態)	運動に主体的に取り組むとともに、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするこ と、合意形成に貢献しようとするなどをしてし たり、健康・安全を確保したりしている。					○		
2 学 期	期 末 考 査	3種目3展開 ①球技(テニス) ②球技(ソフトボール) ③球技(バドミントン) [上記のうち1種目実施]	(知)	【3種目3展開：球技(テニス)】状況に応じたボール操作や安定したラケットの操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることが		○				16
		体育理論	(思)	生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。			○	○		
		(態)	運動に主体的に取り組むとともに、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするこ と、合意形成に貢献しようとするなどをしてし たり、健康・安全を確保したりしている。					○		
3 学 期	学 年 末 考 査	陸上競技(長距離走) 体づくり運動(なわとび)	(知)	【長距離走】自己に適したペースを維持して走ることが		○				22
		体育理論	(思)	【なわとび】自己の課題に応じてさまざまな技について理解し、挑戦することができる。			○	○		
		(態)	生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。					○		
合計										78

東京都立八王子桑志高等学校 令和7年度 年間指導計画(シラバス)

教科・分野：	保健体育	科目：	保健	単位数：	1	指導学年：	2
担当教諭：	石井 琢磨 宇田川 奈津子						
使用教科書	現代高等保健体育(大修館書店)	副教材					

年間指導目標：

個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

評価規準	知識・技能(知)	思考力・判断力・表現力(思)	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力(態)
	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	配 当 時 数
1 学 期	中 間 考 査	生涯を通じる健康(3単元) 1.ライフステージと健康 2.思春期と健康 3.性意識と性行動の選択	(知)	生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていることを理解している。	○					6
			(思)	生涯を通じる健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。			○	○		
			(態)	生涯を通じる健康についての学習に主体的に取り組もうとしている。					○	
1 学 期	期 末 考 査	生涯を通じる健康(3単元) 4.妊娠・出産と健康 5.避妊法と人工妊娠中絶 6.結婚生活と健康 7.中高年期と健康	(知)	生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていることを理解している。	○					6
			(思)	生涯を通じる健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。			○	○		
			(態)	生涯を通じる健康についての学習に主体的に取り組もうとしている。					○	

2 学 期	中 間 考 査	生涯を通じる健康(3単元) 8.働くことと健康 9.労働災害と健康 10.健康的な職業生活	(知)	労働災害の防止には、労働環境の変化に起因する障害や職業病などを踏まえた適切な健康管理及び安全管理をする必要があることを理解している。	○					8	
			(思)	生涯を通じる健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。				○	○		
			(態)	生涯を通じる健康についての学習に主体的に取り組もうとしている。							○
2 学 期	期 末 考 査	健康を支える環境づくり(4単元) 1.大気汚染と健康 2.水質汚濁、土壌汚染と健康 3.環境と健康にかかわる対策 4.ごみ処理と上下水道の整備 5.食品の安全性 6.食品衛生にかかわる活動	(知)	人間の生活や産業活動は、自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすことがあること、それらを防ぐには、汚染の防止及び改善の対策をとる必要があることを理解している。	○					8	
			(思)	健康を支える環境づくりについて、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。				○	○		
			(態)	健康を支える環境づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。							○
3 学 期	学 年 末 考 査	健康を支える環境づくり(4単元) 7.保健サービスとその活用 8.医療サービスとその活用 9.医薬品の制度とその活用 10.さまざまな保健活動や社会的対策 11.健康に関する環境づくりと社会参加	(知)	保健・医療制度や地域の医療機関などを適切に活用や医薬品の使用に関すること、ヘルスプロモーションの考え方を生かした健康に関する環境づくりが重要であること等を理解している。	○					11	
			(思)	健康を支える環境づくりについて、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。				○			
			(態)	健康を支える環境づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。					○		○
合計										39	

東京都立八王子桑志高等学校 令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	英語	科目：	英語コミュニケーションⅡ	単位数：	3	指導学年：	2
担当教諭：	渡辺 健太郎 落合 貴宣 小暮 敦 小林 三浩						
使用教科書	Big Dipper English Communication II (数研出版)		副教材	Big Dipper English Communication II workbook			

年間指導目標：

様々な題材を「読む」「聞く」「話す」「書く」という言語活動の四技能を多様に展開する。英語によるコミュニケーションの素地を作り、前向きで積極的な姿勢や、必要となる基本的語彙、表現、発音、文法基礎をフレーズリーディングやペアワークを行って練習する。理解、習熟した表現を使って外国人講師との授業で実際に応用して使えるようにする。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	英語の音声や語彙、表現、文法、等の知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、適切に表現できている。	英語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	配当 時数
1 学期	中 間 考 査	L1 学校生活・異文化理解 WhyDon'tYouCometo School in Pajamas?	(知)	各Part 本文の内容について、事実や自分の考えを整理し、語彙や、Hints for Understandingの言語材料、Hintsの語句を用いて伝えたり、相手からの質問に答える技能を身に付けている。	○		○			18
		L2 芸術・社会 IS Seeing Believing?	(思)	各Part 本文の内容について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり／書いたりしている。	○	○				
			(態)	自分の気持ちや考えを伝えるために、ターゲットとなる文法事項を用いて質問に答えたり、短い英文を書いたりしようとしている。		○			○	
1 学期	期 末 考 査	L3 健康・生活 Do You Get Enough Sleep?	(知)	各Part 本文の内容について、事実や自分の考えを整理し、語彙や、Hints for Understandingの言語材料、Hintsの語句を用いて伝えたり、相手からの質問に答える技能を身に付けている。	○		○			18
		L4 言語・コミュニケーション DoYou Want to Speak like a Native Speaker?	(思)	各Part 本文の内容について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり／書いたりしている。	○	○				
			(態)	自分の気持ちや考えを伝えるために、ターゲットとなる文法事項を用いて質問に答えたり、短い英文を書いたりしようとしている。		○			○	

2 学 期	中 間 考 査	L5社会・福祉 Universal Design: Convenient for All	(知)	各Part 本文の内容について、事実や自分の考えを整理し、語彙や、Hints for Understandingの言語材料、Hintsの語句を用いて伝えたり、相手からの質問に答える技能を身に付けている。	○		○			24
		L6人物・人生 Wakamiya Masako: The World's Oldest GameApp Developer	(思)	各Part 本文の内容について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり／書いたりしている。	○	○				
		(態)	自分の気持ちや考えを伝えるために、ターゲットとなる文法事項を用いて質問に答えたり、短い英文を書いたりしようとしている。		○			○		
2 学 期	期 末 考 査	L7技術革新・自然 Learning from Natsure	(知)	各Part 本文の内容について、事実や自分の考えを整理し、語彙や、Hints for Understandingの言語材料、Hintsの語句を用いて伝えたり、相手からの質問に答える技能を身に付けている。	○		○			24
		L8文化・食生活 The Wisdom of Preserving Food	(思)	各Part 本文の内容について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり／書いたりしている。	○	○				
		(態)	自分の気持ちや考えを伝えるために、ターゲットとなる文法事項を用いて質問に答えたり、短い英文を書いたりしようとしている。		○			○		
3 学 期	学 年 末 考 査	L9経済・労働 The Sharing Economy: Something for Everyone?	(知)	各Part 本文の内容について、事実や自分の考えを整理し、語彙や、Hints for Understandingの言語材料、Hintsの語句を用いて伝えたり、相手からの質問に答える技能を身に付けている。	○		○			33
		L10環境・社会 Sand and Concrete: A Basis of Our Life	(思)	各Part 本文の内容について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり／書いたりしている。	○	○				
		(態)	自分の気持ちや考えを伝えるために、ターゲットとなる文法事項を用いて質問に答えたり、短い英文を書いたりしようとしている。		○			○		
合計										117

東京都立八王子桑志高等学校 令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	英語	科目：	論理・表現Ⅱ	単位数：	2	指導学年：	2
担当教諭：	渡辺 健太郎 落合 貴宣 小暮 敦						
使用教科書	APPLAUSE ENGLISH LOGIC AND EXPRESSION Ⅱ		副教材	APPLAUSE ENGLISH LOGIC AND EXPRESSION Ⅱ workbook Listeinig Laboratory Basic β			

年間指導目標：

英語による言語活動を通じて、コミュニケーションを図る資質と能力を向上させる。

考える場を提供し、自身の課題を発見し、解決に取り組む経験を通じて意欲と技能を向上させる。

「学び方を学ぶ」ための方法と道筋を提示し、自身の学びを企画し実践させ、目標の設定と実現に取り組ませる。

	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
評価規準	・基本的な英語の「文構造及び文法事項」を理解する。 ・目的や状況設定に応じた英文の構成を理解し、表現できる。 ・論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝えることができる。	・コミュニケーションを行う目的や場面設定から情報を整理し、解決に必要な要素を発見できる。 ・上記で得られた情報や要素から、自身の考えなどを形成し、適切な英語と論理で表現できる。	・自らの学習状況を振り返ることで課題を見出し、その解決を図る方法を設定することができる。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	配当 時数
1 学期	中 間 考 査	Lesson 1 Reflections Before Starging a New Life	(知)	動詞の現在形や現在進行形の意味や働きについて理解している。	○					12
		Lesson 2 Let Your Dreams Come True	(思)	自分のことや、今自分がしていることについて、筋道を立てて詳しく伝え合うことができる。		○				
			(態)	自分のことや、今自分がしていることについて、筋道を立てて伝え合おうとしている。また、自分の発話を振り返り、改善点を見出している。				○	○	
1 学期	期 末 考 査	Lesson 3 Dos and Don't s in Social Media	(知)	動詞の現在完了形の意味や働きについて理解している。	○		○			12
		Lesson 4 Future Prospects	(思)	将来について、筋道を立てて詳しく伝え合うことができる。		○				
		Lesson 5 Let's keep in Good Shape	(態)	将来について、筋道を立てて伝え合おうとしている。また、自分の発話を振り返り、改善点を見出している。				○	○	

2 学 期	中 間 考 査	Lesson 6 Energy Consumptions in the World	(知)	助動詞や受動態の意味や働きについて理解している。	○					16
		Lesson 7 Voter Turnout In Comparison	(思)	比較・対照について、筋道を立てて詳しく伝え合うことができる。		○				
		Lesson 8 What Has Impressed Me the most	(態)	感動したことについて、筋道を立てて伝え合おうとしている。また、自分の発話を振り返り、改善点を見出している。				○	○	
2 学 期	期 末 考 査	Lesson 9 Sports for Everybody	(知)	不定詞の意味や働きについて理解している。	○		○			16
		Lesson 10 The Latest News from around the World	(思)	時事ニュースについて、筋道を立てて詳しく伝え合うことができる。		○				
		Lesson 11 Let's Find Out What We Can Do for Others	(態)	ボランティア活動について、筋道を立てて伝え合おうとしている。また、自分の発話を振り返り、改善点を見出している。				○	○	
3 学 期	学 年 末 考 査	Lesson 12 Learn about Other Countries and People	(知)	関係詞の意味や働きについて理解している。	○		○			22
		Lesson 13 Global Issues	(思)	世界の人や文化について、筋道を立てて伝え合おうとしている。また、自分の発話を振り返り、改善点を見出している。		○				
		Lesson 14 Food Culture around the World	(態)	世界の食文化について、筋道を立てて伝え合おうとしている。また、自分の発話を振り返り、改善点を見出している。				○	○	
合計										78

東京都立八王子桑志高等学校 令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	家庭	科目：	家庭基礎	単位数：	2	指導学年：	2
担当教諭：	山岸 ゆうき 亀井 麻紀子 高山 由香里						
使用教科書	家庭基礎 気づく力 築く未来（実教出版）			副教材	最新 生活ハンドブック（第一学習社）		

年間指導目標：

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を想像する資質・能力を育成することを目指す。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察してことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	配当 時数
1 学期	中 間 考 査	家庭科を学ぶにあたって 第1章これからの人生について考えてみよう 第2章自分らしい生き方と家族	(知)	自分自身や現在の社会状況を客観的に知り、将来を見通した人生設計への課題をみつけることができる。青年期の課題である自立や平等と相互の協力、生活にかかわる現在の労働環境、結婚・家族・家庭の多様化について理解できる。	○	○	○	○		12
			(思)	自分の近い将来についてのキャリアや生活についての設計を考え、ワークなどを用いてそれらを具体的に描いていくことができる。現在の家族・家庭のあり方、課題について解決に導くための考えをまとめ、討論やレポートを通して発表することができる。		○		○		
			(態)	現在の自分のこと、将来の生活設計を考えることについて、意欲を持ってとりくもうとしている。労働の意義や役割、労働時間と生活時間とのかかわりについて関心を持ち、現在の家族が抱える課題を見いだそうとする。		○		○	○	
1 学期	期 末 考 査	第7章 衣生活をつくる	(知)	衣服材料の性能と特徴、衣服整理についての科学的な知識を身につけることによって、衣服を適切に選択し、管理することができる。衣類の購入から廃棄まで、計画的な衣生活を営む知識を身につけている。	○	○	○	○		12
			(思)	衣服の用途によって、適切な衣服素材を考え、判断することができる。現在の衣生活をとりまく状況について、自分の衣生活を振り返りながら、課題を導き出すことができる。		○		○		
			(態)	自分の衣生活をとりまく状況について関心を持ち、衣生活の改善・向上に積極的にとりくもうとする。基礎縫い、刺し子の実習や衣服調査などにおいて積極的に取り組もうとする。		○		○	○	

2 学 期	中 間 考 査	第3章子どもとかかわる 第4章高齢者とかかわる 第5章社会とかかわる	(知)	子どもの心身の発達や子どもの生活についての知識を身につけている。子どもとの接し方、子どもの衣食住にかかわる物づくりなどの技術を身につけている。高齢者社会の現状や高齢期を支える社会的な制度やしくみについて理解している。	○	○	○	○		16
			(思)	子どもの心身の発達、現在の子どもの取り巻く状況や子育ての環境について、課題を見つけ、解決への考えをまとめることができる。高齢者の現状を知り、自立した生活とは何か、自分の考えをまとめることができる。		○		○		
			(態)	子どもとふれあう体験学習や、子どものためのおもちゃづくり、お菓子づくりなどの実践活動に、積極的に参加し、子どもの発達の様子や生活に興味・関心をもとうとしている。高齢社会の現状、心身の特徴や生活について積極的に知り、高齢者とかかわろうとしている。		○		○	○	
2 学 期	期 末 考 査	第6章食生活をつくる	(知)	日本の食文化や食事の意義や役割、食生活を取りまく環境などについて、現代の食生活の課題が理解できる。栄養・食品に関する科学的な知識や調理の技術を身につけ、それを実際の食生活を活かすことができる。	○	○	○	○		16
			(思)	自身の食生活や現在の食生活の課題を発見し、課題解決のために思考し、解決にむけての判断ができる。栄養の機能と食品のかかわり、また食品の特性と調理との関係において、科学的な思考を身につけ、食品選択、栄養計算や献立など、実際の食事作りにむけての判断ができる。		○		○		
			(態)	食品と栄養、調理との関係において、科学的な視点をもって、知識を深めようとしている。自分自身の食生活に関心を持つとともに、自分や家族の食生活について意欲的に改善・向上に努めようとする。		○		○	○	
3 学 期	学 年 末 考 査	第8章住生活をつくる 第9章消費行動を考える 第10章経済的に自立する	(知)	住まいの機能・役割、またライフステージや家族構成などと住まいの関係について理解している。消費行動について、さまざまな情報を収集しながら、自分の消費行動について検証することができる。また契約についての知識を身につけている。家庭経済・国民経済などのしくみについて理解でき、短期・長期的経済計画の重要性を認識できる。	○	○	○	○		22
			(思)	ライフステージと住空間の設計の関係、住環境について考えを深めることができる。消費行動における意思決定の過程について、具体的な事例を通して主体的に考え、判断することができる。現在の経済社会と家計との関係を考えながら家庭の収入・支出・預金などについて適切な考えを持ち、判断ができる。		○		○		
			(態)	住まいの機能、住空間の計画や住環境について関心を持ち、快適な住まいづくり、よりよい住生活の創造にむけて意欲的にとりくもうとする。自分が一消費者であることを自覚し、物・サービスの購入のあり方や、消費行動、消費と環境とのかかわりについて積極的に理解しようとする。自分の経済的自立を考えながら、家庭経済・国民経済のしくみや特徴について積極的に理解しようとし、短期・長期の経済計画について意欲的にとりくもうとしている。		○		○	○	
合計										78